

歴史民俗資料館だより

令和6年12月号 師走 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

季節展示「仙台の正月」

■令和6年12月14日（土）～令和7年2月2日（日）



令和6年も残すところ1か月となりました。季節展示「仙台の正月」では、仙台地方の正月行事や正月膳について御紹介します。

また、仙台の伝統的な門松を再現したものを展示しますので、ぜひ御覧ください。



11月3日開催の「れきみん秋祭り2024」第2部の写真です。盛況に終わりました。

仙台の冬の年中行事 師走（12月）

正月を迎える準備



正月を迎えための行事は12月中に行われ、暮れが近づくと正月の供え物や晴れの食べ物作り、買い物と慌ただしい毎日が続く。農家や漁家はこの時期は農閑期、休漁期に入る。

12月13日頃に行われる、煤掃き（すすはき）から正月の準備が始まる。農家では自製した竹箒を使って大掃除をし、使った竹箒や煤は屋敷神の祠（ほこら）に納めたり、川や堀に流す。これらを終えてから神棚にご飯を供え、お礼などを新しいものと入れ替える。
（中略）

神棚に飾る松や門松にする栗の木、竹などを正月前に伐り、家に迎えることを松迎えという。主に農家の行事であり、12月中旬に行う家が多かった。農家では、正月飾りは自製したり、山から採取して揃えるものであった。

12月28日には、家族が正月に食べる餅と神棚に供える餅をつく。またマユダマ（繭玉）を作りこの日のうちに神棚に飾る。29日に餅をつくことを九日餅（くにちもち）といい「苦」に通じるとして避ける。

（参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」）